

松川浦(大洲国有林)の海岸防災林復興祈念植樹式

磐城森林管理署

関東森林管理局では、東日本大震災によって被災した磐城森林管理署管内の海岸防災林について、居住地や農地などに対する風害・潮害の防備や生活環境の保全に加え、津波の被害軽減効果も考慮した再生に取り組んでいます。

福島県相馬市の松川浦一帯は、被災前は林齢が100年を超えるクロマツを主体とする海岸防災林が広がり、松川浦県立自然公園に指定されるとともに、「日本の白砂青松百選」にも選ばれていましたが、東日本大震災の津波によりそのほとんどが流失してしまいました。

関東森林管理局磐城森林管理署では、震災後の平成23年度から海岸防



「最初の1本」
(関東森林管理局長)

災林の復旧事業に着手し、植栽する樹木が丈夫な根を張るために、地下水位からの地盤高が2・4mとなるよう盛土による樹木の育成基盤を造成してきました。

この度、その一部が完成したことから、11月10日、松川浦の大洲国有林において、相馬市長をはじめ、相馬市民や治山工事関係者、地元の小中学生など約150名が参加し、松川浦の海岸防災林復興の「最初の1本」を植える「松川浦の海岸防災林復興祈念植樹式」を開催しました。



左から相馬市長、局長、福島県森林保全課長

晴天の下、はじめに海岸防災林の復興と工事の安全を祈願し、関東森林管理局長及び相馬市長の挨拶と、局治山課長による松川浦の治山事業の概要説明などに続き、地元の磯部小学校、磯部幼稚園、みなと保育園の子どもたちも参加して、全員で600本のクロマツの苗を植栽しました。

最後に、子供たちが海岸防災林復興の願いを込めたメッセージを静砂垣の板に書き込み、植樹式は終了となりました。

今回使用した苗木は、公益財団法人ヤマト福祉財団の支援により東京の緑地創造研究会が福島県の苗木業者と協力して育成した松枯れ病に強い「抵抗性クロマツ」で、今回無償で提供されたものです。今後、松川浦の治山事業で使用する苗木についても、一部が無償提供される予定になっています。

小さな苗木が成長し、元のような海岸防災林になるまでには、長い年月と多くの人の手を必要とします。

松川浦では、関東森林管理局と福島県が連携して国有林と民有林において事業を進めています。

相馬市民の皆様が安心して暮らせるよう、今後も福島県並びに関係機関、NPO団体等とも連携し、海岸防災林の再生を進めてまいります。



植樹の様子



子供達が復興への願いを込めたメッセージを書き込みました